

性別に起因する生きづらさの解消へ

ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)に起因して、女性は、日常生活や社会生活を送る上で様々な困難な問題を抱えやすい状況にあります。一方、「男性だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便を感じている男性も少なくありません。本町では、男女共同参画推進総合計画に基づき、性別による固定的な役割分担や格差、偏見を解消し、誰もが自分らしく生き生きと、安心して暮らすことができる地域づくりに取り組みます。

計画の重点目標Ⅵ 男女共同参画の視点を踏まえた生活上の困難な問題の解消

施策の方向

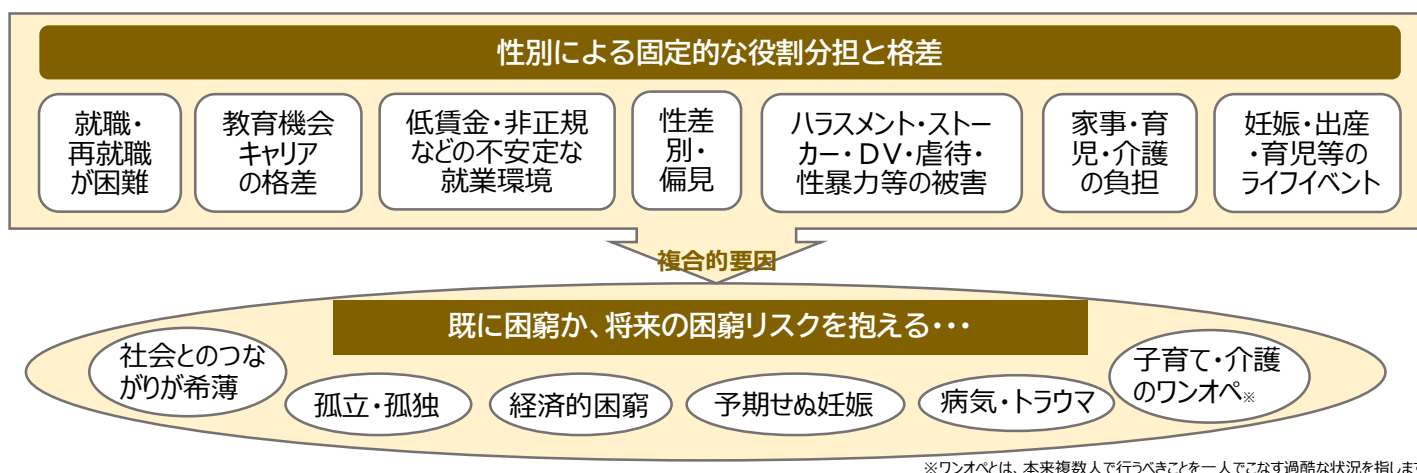
- 1 女性が抱える生活上の困難な問題への理解促進
- 2 生活上の困難な問題を抱える女性の相談支援体制の整備
- 3 生活上の困難な問題を抱える女性の生活・就労支援
- 4 男女共同参画の視点を踏まえた困難な問題を抱える人の支援

主な取組

- ・行政・福祉関係者等を対象とした研修会の開催
- ・ひとり親、社会的に孤立者、ヤングケアラー、DV等暴力被害者などの支援
- ・性別に起因する困難・生きづらさへの理解促進
- ・相談窓口の体制整備と周知

■女性が困難を抱える背景

女性は、周囲から家事や育児、介護の担い手と見られることで、就業等の社会参加の圧力が低くなり、経済的困窮や社会的孤立が男性に比べると可視化されにくい傾向(「家事手伝い」などで問題が潜在化)にありましたが、コロナ禍において、女性が直面する貧困や孤立、暴力被害などの問題が深刻化・顕在化し、ひとり一人の立場に寄り添った包括的な支援を行うために、2024年に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が制定されました。



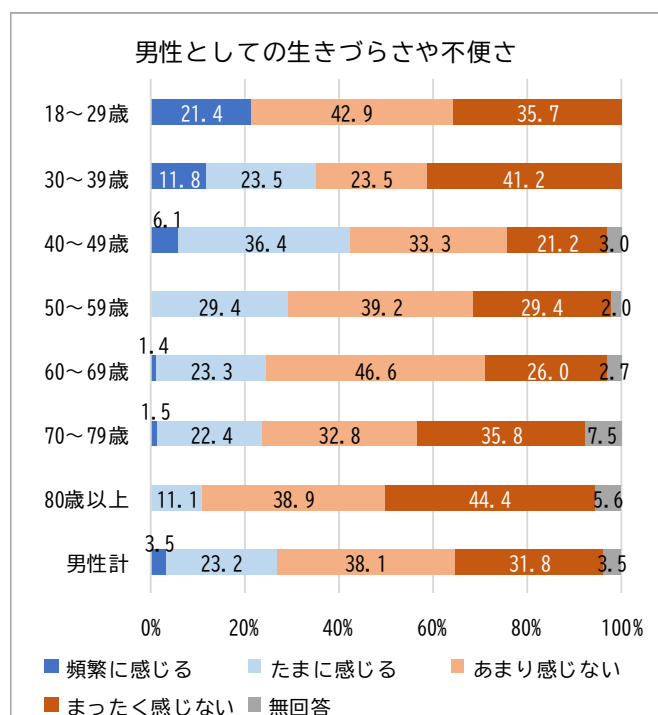
■生活上の様々な場面における不安や困難

2023年に実施した「男女共同参画に関する住民意識調査」で、生活上の不安や困難を抱えていると回答した人の割合は、男女とも「健康」と「災害や事件・事故」において高かったものの、他の生活の場面も含め総じて女性が男性より高く、特に50代女性は、「生活の困窮」、「孤独」および「困っていても支援が受けられないこと」が不安と回答した割合が、性・年代別で最も高い結果になりました。

なお、男性では、70代や未婚者、配偶者との離別・死別者が、不安を感じている割合が高い傾向にありました。

■男性の生きづらさや不便さ

一方、同調査で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを「頻繁に」または「たまに」感じると回答した男性の割合は、全体では4分の1で、うち30代と40代は3分の1を超えました。



相談窓口

- ・鹿児島県男女共同参画センター TEL099-221-6630
- ・北大島くらし・しごとサポートセンター TEL0997-54-1204
- サテライトオフィス:町社会福祉協議会内 TEL0997-72-4144
- ・役場保健福祉課保健予防係 TEL0997-72-1122